

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和7年1月16日（木）

事務事業		ユニバーサルデザイン推進事業		担当課	協働推進課	担当係	協働推進係	管理番号	10121	
総合計画	大項目	6	みんなで創る協働のまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務					
	中項目	1	一人ひとりの個性が尊重されるまちづくり	根拠法令 個別計画等						
	小項目	1	人権・個性が尊重される社会づくりの推進							
	主要プロジェクト									
事業概要		ユニバーサルデザインの考え方を広く市民に理解してもらうため、ユニバーサルデザインまごころ出張講座を開催するものである。また、ワンナイトステイの受け入れ募集、窓口での多言語対応整備等、多文化共生を推進するものである。								
目的 ※何のために		ユニバーサルデザインの考え方の浸透。多文化共生の推進。								
対象 ※誰・何を対象に		市民								
手段 ※どのように		まごころ出張講座を開催する。ワンナイトステイの受け入れ募集を行う。								
成果 ※何を求めるか		ユニバーサルデザインの理解や関心を高める。多文化への理解を図る。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他（ ）								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額（円）		
		一般会計	2	総務費	1	総務管理費	7	企画費	ユニバーサルデザイン推進事業	1,390,320
本事業の 主な業務		・ユニバーサルデザインの啓発					・			
		・ワンナイトステイの協力					・			
		・深谷市国際交流地域連絡協議会との連絡調整					・			
		・窓口での多言語対応整備（遠隔通訳サービス）					・			
		・					・			
		・					・			

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
年度別計画		UDまごころ出張講座の実施、ワンナイトステイ受け入れ募集	UDまごころ出張講座の実施、ワンナイトステイ受け入れ募集	UDまごころ出張講座の実施、ワンナイトステイ受け入れ募集	UDまごころ出張講座の実施、ワンナイトステイ受け入れ募集		
事業費	予算（現額）	687,000	1,610,000	1,408,000	1,671,000		
	決算額	607,797	1,390,320	0	0		
	財源内訳	国支出金	0	0	0		
		県支出金	0	0	0		
		地方債	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0		
		一般財源	607,797	1,390,320	1,408,000	1,671,000	
人件費	従事職員数（人）	0.44	0.44	0.44	0.44		
	人件費相当試算※	3,462,606.00	3,524,473.00	3,678,796.00	3,678,796.00		
総事業費試算		4,070,403	4,914,793	5,086,796	5,349,796		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名	目標値 実績値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
活動指標 1	まごころ出張講座メニュー数	目標値	メ ニュ	4.00	4.00				
		実績値		5.00	5.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		多様性社会に着目したメニュー数/実績値						
	実績値の算出式								
活動指標 2	ワンナイトステイ受け入れ登録家庭数	目標値	世帯						
		実績値		14.00	14.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								
成果指標 1	まごころ出張講座開催数	目標値	回	3.00	3.00				
		実績値		4.00	2.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		市内小中学校全３０校の１０％を目標とする　／　実績値（単年度）						
	実績値の算出式								
成果指標 2	ワンナイトステイ受け入れ人数	目標値	人						
		実績値		3.00	4.00				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		県の年度計画による定員配分によるため主体的目標設定は困難。　／　実績値（単年度）						
	実績値の算出式								
成果指標 3	外国人とのトラブルなどを聞いた市民の割合	目標値	％						
		実績値		7.90	11.50				
	目標値の算定根拠/実績値の出所		さまざまな社会的要因が考えられるため主体的目標設定は困難。　／　市民まちづくりアンケート						
	実績値の算出式								
		目標値							
		実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所								
	実績値の算出式								

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
（評価基準）（A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない）

（1）事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	B	まごころ出張講座開催について校長会や通知によりPRをしたものの、要請数が少なかった。 多言語対応整備はプロポーザルを行うことで、言語数やサービスレベルを維持した。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	ワンナイトステイ受け入れ登録者数は、登録辞退が有り数が減ったものの、新規登録者が有った為、前年と同数を維持し、ワンナイトステイ受け入れは人数が増加した。
			評価者 協働推進係長 田中 信江

（2）事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
（評価基準）（A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない）

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	A	窓口での多言語対応整備はモバイル端末による遠隔通訳サービスであり、民間委託およびICTの活用をしている。 ワンナイトステイ受け入れ登録者の更新をグラファーを通じて行いICTを活用した。
			評価者 協働推進係長 田中 信江

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和4年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	まごころ出張講座の周知を図り、講座を開催する。
達成状況及び その効果	まごころ出張講座の主な開催先である学校向けに校長会で説明及び募集を行った。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	ユニバーサルデザイン推進事業	担当課	協働推進課	担当係	協働推進係	管理番号	10121
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		<div>評価の内容説明</div> <div>新一万円札発行を見据えてまごころ出張講座の設定を行ったが、利用者（講座選定者である学校教諭）から選ばれにくかった。開催先では内容等について好評であったため、さらなるPRに努めていく。</div>					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者	協働推進課長 笠原 毅				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和6年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	まごころ出張講座のメニューについて、より効果的に推進が図られるよう、内容を常に見直ししていく必要がある。
令和7年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	まごころ出張講座は小学生が受講することが多いので利用者（講座選定者である学校教諭）の興味を惹くような工夫を行う。

8. 評価指標グラフ

